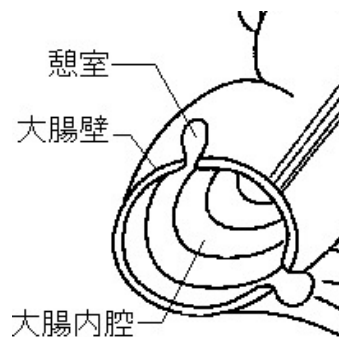


# 憩室について

[ \_\_\_\_\_ ]さま

## 【憩室とは】

- 大腸の粘膜に小さなひだ状のものができることがあります。大腸の管の中から見ると、小さな横穴があるように見えます。これを憩室(けいしつ)といいます。
- 憩室は比較的によくある 異常です。とくに便秘気味の方、お腹が弱く、よく痛みを自覚される方に多いといわれています。加齢につれて数は増える傾向にあります。
- 憩室そのものは特に異常ではなく、たとえばポリープのように処置(切除)を行なうべきものではありません。通常無症状です。ただし、まれに 憩室が疾患の原因となる場合があります。憩室炎と憩室出血です。



## 【憩室炎とは】

- 憩室炎は憩室に便がはまりこみ、そこで細菌が感染し炎症が生じることです。ひどい場合は腸の外に炎症が波及し、腹膜炎になることもあります。
- いわゆる盲腸＝虫垂炎のような、腹部の痛み・熱が主な症状です。
- 程度により治療はさまざまです。軽いものだと自然治癒することもありますし、ひどい場合は絶食し、抗生剤の投与を要することもあります。まれに憩室が穿孔し、腸の外側に膿がたまった場合、手術を要することがあります。

## 【憩室出血とは】

- 皮膚と同じで、大腸粘膜は、浅い層には細い血管があり、太い血管は深部に存在します。憩室があることにより、粘膜の深部の太い動脈が内腔に露出し、そこに大腸内容物が刺激を加えて傷つくと、大量の出血を起こすことがあります。腹痛はあまり起こりません。
- 出血の程度も状況によりさまざまで、自然に止血されるものもありますが、輸血を必要とするほど大量に出血することもあります。出血量が多い場合は緊急内視鏡を行い止血術が必要とします。内視鏡では出血源がわからず手術を必要とするものもあります。

上記内容を説明しました。

平成 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 \_\_\_\_\_ 科